

**やさしく**
ニャンハウ**かしこく**
トンミン**たくましく**
ホーエマイン

校長 佐藤之保

「違う」ということ



以前、テレビ番組で、アメリカのある有名大学における「ブレインストーミング」の授業を視聴しました。ブレインストーミングとは、集団（小グループ）によるアイデア発想法の1つで、参加メンバー各自が自由にアイデアを出し合い、互いの発想の違いを利用して、連想を行うことによってさらに多数のアイデアを生み出すという集団思考法・発想法のことです。授業では、一人の教師が提示した課題について、国籍も違う生徒が、英語を共通語として、楽しいそうに、活発に意見を出し合っていました。「実現できるかどうか？」なんて気にしないで、用意されたホワイトボードが、あっという間に、色とりどりに、自由な発想で埋め尽くされて

行きました。メンバーの意見を決して否定せず、肯定し、時として、「それで・・・」と言って付け足していき、発想を広げていました。教師の「一日の時間が足りない」という課題に対して「一日の時間を増やす」「効率的な睡眠を開発する」「時間の流れを遅くする」・・・生徒たちは様々なアイデアを生き生きと出し合っていました。

人はみんな一人一人違う考えをもっています。そして、違う道を歩んでいきます。「違う」からいいのです。みんなが、安心して生きていけるための、一定の社会のルールを同じように守っていれば、後は違っていいのではないのでしょうか。その上で互いに理解し合い、協調し、みんなで豊かな社会を作っていければと思います。

最近の日本の社会を見ていると、逆に、みんな同じように守らなければいけないルールが十分に守られず、違っていい考え方や意見が認められずに同一になっていくような風潮がある気がしています。それが、生きにくい社会につながっている原因の一つであるような気がしています。

考えや意見の違いを受け入れ、興味をもって関心を示すには、幼少期からの、十分に認められたり、共感されたりする、「心地よい」体験がとても重要です。「自分には価値があるんだ」という安心感がなければ、他者を受け入れることは難しいでしょう。他者と自分との「違い」を、自分への「否定」と考えてしまう可能性があるからです。

私の今までの日本の学校での経験では、人の悪口やうわさをSNSで確かめ合って、結果的にお互いの不安を増長させ、苦しんでいる子供たちが多くいました。その裏では、「違い」を受け入れられないまま、「一人になりたくない」「共感したい」という欲求を満たすために「人を貶めて自分を優位にする」という考え方を採用する、という思考が働いている気がしていました。うわさは広がれば広がるほど真実が「歪んで」いきます。もし、高校生や大人の中でのSNSの問題が絡んでいる場合は、問題をより複雑化し、さらなる子供へのマイナス影響の循環を生み出します。

大いに自由に羽ばたいてもらいたい子供たち。

保護者の皆さん、ぜひ、子供たちの考えに共感し、認めてあげてください。そして、一緒に大いに笑ってください。それが、子供の心に安心感をどんどん育てていきます。

子供たちには、「違い」を受け入れ他者に興味をもって関わり、世界に羽ばたいてほしいと思います。子供たちの育ちは、保護者である皆さんの人生にも影響していきます。

夏休みには「お手伝い」を！！

本日の終業式にて、子供たちに、夏休みは「お手伝い」をするように話しました。

人が幸せを感じて生きるには「感謝」の気持ちをもつことがとても大切です。「当たり前」と思ってしまうと、感謝の気持ちはわいてきません。炊事・洗濯・掃除・・・日常生活を快適に送ることができているのは、誰かがそれをやってくれているからです。お手伝いをするによって、家事をすることと自分の快適さのつながりを、子供たちがしっかり意識してほしいと思います。